

地方あるある

〇〇コーナー>利用者に害はないが、その表示効果も感じられない。その表示方法の良し悪しではない。ましてや、表示された対象を否定するのでは全くない。その表示における必要性の問題である。無い方がかえって好い印象を与えるのではないか、ということもある。つまり、その表示があることにより、利用者がその表示方法に違和感を感じたり、表示対象となるモノやサービスの価値が減退するような印象を与えてしまう可能性があるということである。付加価値の対義語（見つかからない）に相当する価値を与える印象。仮にそのような印象を与える手段を自らの資金で実施しているのなら不幸であるし、公的な資金の利用により表示されているならば、笑えない笑話であり、腹立たしい。

〇〇体験>将来ある人々が日常生活においてできないような体験をすることは、教育上極めて有意義なことである。文句なし。大人にとっても、非日常の体験を通じて、その人の社会が広がったり、社会性が改善されることは喜ばしいことである。これも文句なし。文句を言いたいのはその表示方法である。上記〇〇コーナーと同様、〇〇体験と表示しなければならない理由がよく理解できない。〇〇体験コーナーなどと表示されていれば、その××さ加減に拍車がかかる。企画表示した方は、きっと変わった扇子をお持ちのようだ。

〇〇レンジャー・ゆるキャラ>やってる方達には申し訳ないが、究極の自己満足の言葉を進呈しよう。もしかして、それを見ている・見た将来ある人々の中には、心が痛んで「とっさんやめて」と泣いている人達もいるかも。いい大人が「マネ」してみっともないと感じないのか不思議である。まさかと思うが、これにも公的資金が投入されているのか？

〇〇バーガー>究極の安直さ。産直ではない。誰が食べるの？そもそも食べ物？見せ物なのか？誰か止める人や咎める人はいないのか？地元の逸品の食材をパンズに挟む。考えた方は罰が当たればよい。その逸品の食材が泣いているし、その生産者も悲しいのではないのか？食育の観点からも否定せざるを得ない。ハンバーガーを否定しているのではない。将来ある人々に食の「ありがたさ」や、それ以外にも食べるべき大切なものがある。ということを教えなければならないから。その前に、先ず親から教育しなければならない。

〇〇カフェ>これもよくあるパターン。喫茶店なのか食堂なのか〇〇屋なのかその専門性をハッキリして欲しい。何れにしても中途半端。地域コミュニティセンターと同義。

地域創成対策本部>①今更何故？②それが地方にあるのは何故？が大きな疑問であり、地方に設立された当該本部の目的は何か？を想像するとゾッとする。それらを評価するのは誰か？誰が責任を取るのか分らない。それ以前に執行者における「全体の奉仕者意識」の欠落を指摘しておく。納税者にはその目的・効果は理解・期待できない。まだあるある。